

天理市「みんなの学校プロジェクト」の推進

～学校を地域社会の学びと
支え合いの拠点に～

地域の
特色ある
活動

奈良県天理市教育委員会

天理市は、奈良盆地の北東部に位置する人口6万2千人の市である。全国的に進む少子化・高齢化は、本市も例外ではなく、出生数は現在、12年前の6割まで減少している。この減少率が続くと、現在の児童数2,685人が10年後の令和15年度には、2,064人へと、ほぼ4分の3となることが予想される。このことについては、先を見通した様々な面からの検討・対応が求められる。

一方、現在の学校においては、課題が複雑化し、学校だけでの対応・解決が困難となる事案が増加している。地域の力を取り込み、学校と地域がさらに強固な協働体制を築くため、全小学校区で学校を拠点とした活力あるコミュニティづくりを進めている。地域の大人が子供たちの活動に関わり、また、子供たちが周囲の大人や地域社会から学ぶなど、地域の子供を地域のみんで育て支え合う取組である。

令和2年度から市内の全小・中学校を単位とする地域で学校運営協議会を設置し、地域が学校運営等に参画する仕組みの整備を進めてきた。それ以前から、類似の団体により、地域の思いを学校運営に生かす等の取組は少なからず行われていたが、内容や質において各地域間における取組の差があった。学校運営協議会設置を機に、全地域の学校でのこれまでの取組を土台として、市教育委員会・各校区が進めている「みんなの学校プロジェクト」の3つの視点について、その具体的な取組例を紹介させていただく。

1 「学校・地域の絆づくり」～小学校区に地域の絆づくりと支え合いの場を～

◎登下校見守り&ふれあい茶屋

地域のボランティアが登下校時の安全見守

りの際に、見守りだけで終わらず、学校の空き教室に集い、お茶を飲みながら歓談・交流してもらおう。ここでは地域の大人どうしで、また、子供も含めて新たなふれあいのアイデアが広がる。毎日、当番の児童がふれあい茶屋でお茶を出したり、始業時間までの間、児童とボランティアが話をしたりする時間も好評である。高齢の方々が無理なく、義務感もなく、ウォーキングがてら参加されているケースが多い。

◎地域塾・地域食堂

高学年を対象に土曜日の午前等に公民館学習室で地域の大人が見守りの中でプリント学習を行う。夏・冬休み中には、学習後に地域の人々が作った簡単な昼食を大人と子供と一緒に食べ交流することもある。地域塾に参加するには、子供が学校行事の係活動や地域行事への参加等、地域貢献活動を行うことが条件となる。そして、塾に参加するとその度にポイントがもらえ、ポイントが貯まると希望する職業の体験学習ができるなど、地域の人たちが子供の夢を応援する仕組みとなっている。今では、地域の高校生、大学生が塾長を務め、塾長が自分の夢を子供に語るなどの取組も進んでいる。

校区の中学校への拡大も進みつつある。部活動等との時間の重複等、課題は多いが、中学生として身に付けてほしい「読む力」「考える力」を育てるため、新聞のコラム等からキーワードを捉えて要約するという課題に取り組む「まなび支え合い塾」をさらに広めたい。

◎学校図書館の開放

学童保育の児童、預かり保育の幼児への学校図書館の開放である。ここでは、長寿会メンバーなど、地域住民による読み聞かせ活動が行われている。親と一緒に過ごす時間の少



幼稚園児に絵本の読み聞かせをする児童

ない幼児・児童にとって、ボランティアによる放課後の読み聞かせは貴重な機会である。

2 「校区単位で進めるSDGs」～地域に豊かな未来社会を残すための行動や仕組みづくりを～

◎食物残渣発酵分解装置を各小学校に設置
学校給食の調理後の残渣や、家庭から子供たちが持ち寄った生ごみ等を発酵・分解させ、授業等で行う循環型社会、環境教育の教材として活用している。市の生ごみ収集を助けることが目的ではなく、あくまでも子供たちが環境問題を身近に捉えて考えることを目的とし、処理された生ごみは、堆肥として学校の花壇や菜園で利用される。地域の大人たちも巻き込んでSDGsへの関心の拡大を図りたい。

3 「教職員と地域の人との交流・情報交換による課題解決」～地域・学校が知恵を出し支え合える関係を～

◎「公民館活動との協働」



大正琴を体験する児童

児童生徒が多様な他者と体験活動や学習活動を通し交流することによる、児童の経験と知識の充実に向け、公民館活動等を協働授業として展開している。

一例を紹介すると、公民館が主催する地域の歴史を学ぶ文化教室の講師が小学校の教壇に立ち、児童にとって日ごろは気に留めることが少なかった校区内に多数存在する農業用ため池についての授業が行われた。ため池の



地域の方に昔のまちの様子を聞き取る児童

形状やその設置の目的など、様々なエピソードを交えた話を地域に住む方々から直接学ぶことは、児童にとっては新鮮な経験であり、自分たちが住む地域の新たな発見となった。

また地域の人たちにとっても、児童が地域に関心を示してくれることは公民館活動の活性化につながり、地域の絆を深める絶好の機会となっている。

◎「いなほの会」

不登校を抱える保護者グループの会に、困難な時期を乗り越えた地域の人々も加わり、一緒に悩みを出し合ったり、アドバイスを受けたりできる、不登校を考える地域の自助団体を市教育総合センターが支援している。学校や教育委員会が行う不登校への取組に加えて安心・希望を保護者にも届けられるものとした。

地域・学校の新たな協働体制や地域による学校運営への参画も進んできた。市では、学校を拠点としたコミュニティづくりを、地域の課題だけでなく、社会全体が抱える課題の解決も含めた取組とすることを考えている。市内には、なら歴史芸術文化村、天理大学や関係の資料館、大和古墳群、宗教都市としての街並みなどの社会資産がある。これらを引き継ぎ、よりよい地域づくりに向けたビジョンを持った学びと支え合いの拠点づくりとして「みんなの学校プロジェクト」を進めている。



教育委員

吉田 義和